

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

事業所番号	0170502769		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 清田館 2階		
所在地	札幌市清田区清田6条1丁目11番15号		
自己評価作成日	平成29年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajogkensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=0170502769-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成29年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様の尊厳を大切にし、日々の生活をその人らしく、安心した生活を送って頂けるよう支援し、ご家族や地域住民の皆様と支え合う関係に努めています。 ・四季折々の自然環境の良い閑静住宅街に建っており、公園が隣接し普段の散歩で季節を感じやすく、月1回の外出行事にも力を入れています。 ・職員の勉強会を月1回開催しており、重度化への対応や看取りにも取り組んでいます。 ・町内会から行事へのお誘いがあったり、夏祭りを町内と楽しんだり、地域に密着したホームを目指しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に「地域に信頼され、愛され、支える企業」を掲げ、管理者と職員は毎日ミーティング時に唱和を行い、共有を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会で回覧版をまわしていただき、地域行事のお誘いや、ホーム祭り、火災時の協力体制などおつきあいを大切にいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けの広報誌を前年度より行い、町内会への回覧板に掲載していただいた。今後も認知症についての情報発信や事業所への理解を広げていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議内で、リーダー主導の「事故・リスク」「サービス向上」の一年間の取り組みを発表し、貴重な意見をご家族様よりいただいた。今後も職員の接遇やサービス向上につながる場として活用したい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者には、機会あるごとに連絡し、いろいろと相談させていただいている。特に、認定調査時には利用者様に対するサービス内容や、生活状況を詳細に伝えるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを法人全体で取り組んでいる。センサーや柵などを安易に使用せず、巡回を多くしたり、声や物音が聞こえやすかったり、見守り位置を工夫したり、利用者様ひとり人に合わせた見守り等の対応で、実践に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な社内・外部研修に開催している。ビデオにて解説したり、ニュースでの事件を取り上げたり回覧したり、職員が常に意識や注意できるように実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年1回は社内研修で権利擁護について学ぶ機会を設けている。当ユニットでは成年後見制度を利用している方おり、今後は利用者やご家族への情報提供を行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本社社員と管理者が同席し時間をとって丁寧に説明を行っている。重度化や看取りについての対応や、退去を含めた事業所の対応可能範囲、料金等書類にて同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームだよりを毎月発行したり、来館時には挨拶はもとより近況報告をさせていただき機会づくりをしている。今年度は年3回家族へのアンケート調査に取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者会議やユニット会議、リーダー会議の開催にて、職員の意見・提案は聞く機会を設けている。また、日々の運営では、管理者は柔軟に対応するよう心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各研修受講費の負担や、資格取得支援として、初任者研修や実務者研修受講の支援を会社で行うこととなり、職員が向上心を持って働ける環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で研修を開催したり、交換研修を行うなど職員ひとりひとりに合った社内研修や社外研修を受ける機会を確保をしている。また、研修参加者が事業所内にて伝達講習を行うことで、共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市や同区内の管理者連絡会へ出席し、勉強会・交流会に参加している。同事業所主催の交換研修で勉強や相互訪問したり、夏祭りに手伝いなどで参加し、同業者との交流も行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談でご本人とご家族様から生活状態を把握するように努め、また、ご本人からの要望や不安に向き合い、気持ちを理解しようと工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時期には、これまでのご家族の経緯をゆっくり聞くようにしている。ご本人の要望を照らし合わせたり、相談回数を重ねたりしながら、関係の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の実情や要望等を確認・相談しつつ、関係職員と必要な支援を提案・検討するように努めており、色々な職種からの入居検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様同士が協働しながら生活できるように努めている。また、機会があれば得意分野を生かしたお手伝いをしていただくよう、日頃から心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の実状や関係性に配慮しつつ、入居後も共にご本人を支えるような関係性構築に努めている。特に、面会時にはご本人の普段の様子を報告し、ご家族からの要望を聞くように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前入居されていた近隣施設が「認知症カフェ」を行っており、友人と交流が継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように、気の合う者同士が、共に過ごせる場面を設けたり、時には職員が積極的に関わって、関係がスムーズになるよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関に移った場合でも、馴染みの職員が面会に行くなどして、サービス利用中に培われた関係性が継続するよう努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が日々の暮らしのなかで、口にする言葉や行動の意味を、職員が理解するよう、会議や申し送り等で情報を共有し、ご本人の思いや希望を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シートを活用し、ご本人やご家族からの情報を得ている。また、信頼関係構築後など、ご本人自身からの会話や家族訪問時に、聞き取るなど少しずつ把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスでは、心理面の視点や、できないことよりできることに注目して、その人全体の把握に努めるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは各スタッフが行うようにしている。それをベースに、カンファレンスで必要関係者と意見交換をしている。通常は3か月毎に見直し、事故、入院等あれば、都度介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケアプラン記録には番号をつけ共有しやすくしたり、月毎の生活チェック表を用いて、身体状況の変化に気づきけるように見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの体操や行事に参加したり、ご本人の状態やご家族の状況によって、緊急時の対応や柔軟に通院支援などの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設の行事には積極的に参加したり、毎年恒例の町内会地事にも参加し、地域で暮らし続けるよう取り組んでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時や入居後もご本人やご家族と話し合い、かかりつけ医を選択できるよう希望を大切にしている。提携医療機関の場合は月2回の訪問診療を受け、緊急時は往診または病院対応を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の本社から訪問看護があり、健康チェックや相談・報告を行い、助言や指示を受けられ、訪問日以外でも電話連絡にてアドバイスを受けることができ、連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、事業所内でのご本人の状況を、医療機関に書面提出したり、ご家族と回復状況等の情報を交換を行っている。退院後戻った場合の生活にはなるべく変化がないよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した際の指針の説明を行い、同意書を頂いている。また、病状に応じて最後の迎え方の意向書を、段階的に、ご本人、ご家族、主治医、管理者等で話し合い確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、社内・外部研修の参加している。ユニット内には万が一に備えすぐに対応できるよう、マニュアルを掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会にて年3回の火災訓練を行い、自動通報装置に町内会役員が登録されている。水害マニュアルを策定し、2階へ移動する訓練も行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けや対応については、ケースカンファレンスで、各々の人格を尊重した声かけやケア場面を具体的に話し合い、統一できるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の思い込みや決定ではなく、選択できるような提案をし、一人ひとりが自分で決める場面をつくるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の体調やペース、またその日の気分を尊重して、日課や業務を変更するなど、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選べる声掛けや、訪問利用時には職員がそのひとらしい髪型になるようアドバイスをしている。その際はご家族へ定期的に評価していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせた味付けや、本人が食べたいものしか食べることができない方には個別メニューの変更を行っている。また、リビングと台所の距離も近く、調理中でも入居者様と会話を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの水分量や食事摂取量を記録として残し、カロリー過不足や水分不足を起こさないように、日中都度確認もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は見守り程度とし、困難な方にはスポンジやマウスウォッシュを利用している。口腔ケア拒否が強い方は、訪問歯科と協働して対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日排泄予防運動取り入れたり、実行機能障害が排泄動作のどの部分で生じるか検討し、その人にあったケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や甘味物、散歩や運動などで排泄を促すよう支援をしている。ヨーグルトなども食べて頂き、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	午後にゆっくりと入浴して頂けるようにしているが、拒否や受診、外出等ある場合は、担当者や時間帯、日程を変える等柔軟に対応している。入浴剤も使用し、香りや色を楽しむことができるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に消灯時間が違うので、消灯時間を決めずに、部屋で過ごしたり、テレビを観たり、一人一人の生活習慣を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように、目のつく場所に「薬情報用紙」を置いてある。さらに、内容に変更がある場合は、必ず申し送り確認し、経過観察をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の生活歴やできることを話し合い、役割や楽しみ、気分転換できるよう支援している。外出行事の際には、利用者から要望の聞きとりをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームには農園があり、日常的に散歩外出できるようになっており支援している。また、ご本人の希望にそって、買い物や散歩の付き添いを支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族同意のもと小額のお金を持っている方もいらっしゃる。買いたい物が有る際は職員に相談され、近隣のコンビニ等で使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室でゆっくり子機を使用していただいたり、ご本人の希望やご家族からの電話には、気軽にとりつぐようにしている。旧友からの電話には、ご本人の代わりに生活の様子を報告し、安心していただいているケースもあった。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらうために、壁に入居者様と一緒に作ったり、手伝ってもらったりして、装飾を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、食堂と一体となっているが、ソファや食卓の位置を工夫し、自由にくつろげるよう配慮している。また、和室も設置しており、簡単に腰をかけることができるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた、馴染みの家具や日用品を持ち込まれており、家族写真が飾ってある。また、介護用ベッドが必要な場合には、会社で相談を受付している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーとなっており、全面的に手すりが設置されている。また、トイレ、洗面所などに目立つ表示を設置したり、移動動線を確保するようにしている。		